

<今日の説教のポイント 出エジプト記9章1～35節>

1 10の災いの出来事の何に注目するか、それが大事。

ちょうど切りのいい10の災いの出来事ですが、これを読んで何に注目するかが大事です。一つ一つの災いの内容に注目して、それを今起きていることに重ねることもできますが、そうではないでしょう。まずは10の災いを通して繰り返し言われている点に注目することが大事でしょう。するとまず浮かび上がるのがファラオのかたくなさです。

2 繰り返されている記述に注目。かたくなさは私たちの中にもあり。

ファラオは9章に出て来る3つの災いを経験しても、最後には必ずかたくなになったと記されています(7, 12, 35)。そして、それぞれ、イスラエル人の家畜が死ななかつたことを確認させた上でかたくなであり続けた(7)、魔術師もはれ物に対処できなかつたのにかたくなであり続けた(12)、災いが治まったらかたくなに戻った(34-35)、と記されています。このことから考えさせられることは何でしょうか？ 私たちの中にもあるかたくなさではないでしょうか？ 「疫病」(3)と「(この)事」(5, 6)はヘブル語では同じ語(DBL)です。神様は色んな「事」を起し、私たちに気づかせようとして下さる、しかし私たちはなかなかそのことに気づかない、あるいは、むしろ目を背けようとして来たのではないのでしょうか(5-6節の表現に注目)。そのかたくなさ(罪)に気づき、方向転換する(悔い改める、回心)ことが大事なのです。

3 私たちのかたくなさを主なる神様が打ち砕いて下さる！

しかし今日の聖書箇所が示す神様は、そのかたくなさ故に私たちを滅ぼそうとされる神様ではなく、気づくことを待ち、そのことをむしろ意味あるものとして用いようとして下さる神様なのです(15-16に注目)。しかしファラオはなおもかたくなであり続けました。とすると私たちも彼と同じ存在であり、救いはないのでしょうか。そうではありません。主(ヤハウェ)は、御子イエス・キリストによって、ご自分の方から手を差し伸べ、かたくなな私たちを打ち砕いて(神様に降参する思いを私たちに起こして下さり)招き入れて下さる道を開いて下さったのです。イザヤ書19:19以下、ロマ書9:17前後の神様の憐れみに注目！